

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市新高幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

教育目標

元気に やさしく 考える子ども

「元気に遊ぶ子ども」「みんなと仲良く遊ぶ子ども」「自分で工夫し、考える子ども」を基に、幼児期にふさわしい「遊びを通した学び」を大切にした教育を推進し、友達や身近な自然、人々との温かいふれあいのある生活体験により、自他共に尊重しあう心を育む。

令和7年度のクラス編成は、4歳児1学級11名、5歳児1学級16名、計27名である(R7.4.1時点)。2年保育の就園前の生活経験は様々であるが、4歳児で保護者と初めて離れた幼児が、入園後、安心して幼稚園で過ごせるようになるために、教師は、幼児の内面理解に努め、一人ひとりと丁寧にかかわって興味や関心を探り、生活経験や発達状況に応じた働きかけを工夫することを大切にしている。

本園では幼児の実態を踏まえ、幼児一人ひとりが、安心して、自分らしさを発揮できるように、幼児が自ら、自分なりのペースで環境(人・もの・こと)に関われるようにすることを大切にしている。そうすることで、幼児は、自ら環境にかかわり、「やってみたい」「もっとしたい」という、意欲をもち、試したり、考えたりしながら遊びを繰り返し、いろいろな経験を積み重ねながら沢山のことを学ぶようになるからである。それが、遊びを通して学ぶ姿だと考える。このような姿を育むためには、保護者と連携し、幼児が「幼稚園は楽しい」「友達や先生と過ごすことが楽しい」と感じられる安全・安心な教育環境づくりをすることが大切である。また、教師主導で遊びを与えるのではなく、教師が幼児の思いや願いを汲みとった活動内容や環境構成を工夫することで幼児が主体的に活動できるように働きかけることが必要である。

更に、幼児が自らやりたいことを見つけ、楽しみながら存分に遊ぶようになるためには、十分な遊びの場と時間、多様に人とかかわることができる幼稚園生活の保障が大切であると考えます。本園は、各学年が単学級である。少人数であることをメリットと捉え、日々の生活や行事において、4、5歳児の異年齢交流に意図的に取り組む。それを通して、憧れや思いやりの気持ちをいろいろな人とかかわりに広げ、小学生や未就園児との交流活動にもつなげていく。

今年度は、年度目標、年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標の内容や意図を保護者に分かりやすく伝える取組を行う。昨年度に引き続き、新高地域・小・幼合同防災訓練に園児が保護者と共に参加し、防災意識をもつとともに、避難所である小学校の状況について把握することで、災害に備えられるよう取組む。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」

「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にした保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にした教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取組をしている」

【学びを支える教育環境の充実】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取組をしている」

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」

「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にされた保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通じた学びを大切にされた教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取り組みをしている」

【学びを支える教育環境の充実】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

保護者アンケートの結果、どの項目においても当てはまるが100%で、目標を上回って達成した。

今年度は、一時預かり保育の利用者が増え、保護者の行事への参加率も減少した。そこで、引き渡し訓練や地震の避難訓練を全保護者が出席する2学期始業式に行った。

また、小学校、関係諸機関との連携による避難訓練の実施や、地域・小学校・幼稚園の防災訓練に保護者とともに参加できるようにしたことで、防災意識が高まった。

各たより、個人ファイル、参観等での幼児の姿を見ていただくこと等を通して、幼児の姿を発信してきた。「遊びを通じた学び」とは、どのようなものかを始業式や終業式

の保護者会の機会を活用して、保護者とともに、写真や動画から読み取っていったことで、理解してもらえたことがアンケートの結果につながったと考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・保護者アンケートの結果、どの項目においても当てはまるが100%で、目標を上回って達成した。幼児自身が遊びとして楽しみながら様々な挑戦をしたことを保護者も実感していただけたからだと考える。

【学びを支える教育環境の充実】

・保護者アンケートの結果

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」について、当てはまるが100%であった。

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」について、当てはまるが96.6%であった。

・どちらの項目においても、当てはまるが、80%以上であり、目標を上回って達成した。

「遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」の項目では、当てはまる、やや当てはまるの肯定的な回答を合わせると100%であった。やや当てはまると回答した保護者から、欠席等で保護者会に参加できなかったとの声があった。

一時預かり保育の利用等で、保護者が迎えに来る時間がそれぞれ違う。一同に会していただき、説明することが難しくなっているので、今年度は、4月に年間行事予定表を作成し、参観や行事とその内容も掲載して配布した。幼児の姿とともに、園の取組みを伝えていく機会をどのようにつかが課題である。本園の幼児を取り巻く環境の変化についての実態把握に努めるとともに、保護者に積極的に関わっていただけるような行事の日程や内容の工夫、事前に内容を周知するようにするなど、改善していく。

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。</p> <p>「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」</p> <p>「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」</p> <p>「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にした保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>園の実態を踏まえた安全指導を行い、保護者と連携して、安全な生活や危機管理への意識を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全指導年間計画を作成し、保護者を含む訓練を年1回以上行うとともに安全だより（ヒヤリハットアンケートによる幼児の実態把握を含む）を年間5回以上発行する。 ・区役所、地域、小学校、関係諸機関と連携した訓練及び安全指導を年3回以上行う。 	A
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>園と保護者が連携して、すすんであいさつをする子どもを育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や身近な人に親しみをもってあいさつを交わす経験ができるよう、年に3回以上、朝のあいさつ週間を設ける。 ・異年齢で当番する機会を設ける。 	B
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人の幼児の実態を捉え、思いや願いを大切にした保育を通して、園生活を楽しむ幼児を育てる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間10回以上、各クラスの取組を保護者に伝える日を設ける。（一時預かり利用者も「のびのび」の降園前に） ・ホームページを通して、幼児の遊びを通した学びを発信し、保護者と連携しながら幼児理解を深める。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>【取組内容①】</p> <p>○安全指導年間計画を作成し、保護者を含む訓練を年1回以上行うとともに安全だより（ヒヤリハットアンケートによる幼児の実態把握を含む）を年間5回以上発行するについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、8月に、保護者の引き渡し訓練、2月に地域小幼合同防災訓練を行った。保護者も一緒に、災害が起きた時の身の守り方を実践することができた。 ・4月、7月に2回、12月に安全だよりを発行した（3月に1回発行予定）。訓練の様子や身の守り方について伝えた。家庭で、訓練の内容について話し合う機会となった。 ・ヒヤリハットアンケートでは、「家の中や家族で出かけた時に、ヒヤッとしたことはあ

りますか」「登園中にヒヤッとしたことや場所はありますか」「公園や園庭開放でヒヤッとしたことはありますか」について聞いた。保護者が予測できないような幼児の突発的な行動があると分かった。今年度は、危険を感じたことをどのように改善するかについても質問したところ、・信号が青に変わってから、必ず車が交差点からいなくなるまで渡らないようにしている。・大きな公園では、人にまぎれないように、目を離さないようにしている。・横断歩道を渡るときには、「右・左・右」の確認を、保護者だけでなく、子どももできるようにしている。・家の前の横断歩道に信号がなく、交通車両が多く、なかなか渡れないため、小学校入学に向けて、見守り、危険な時は声をかけるが、子ども自身の判断で渡れるように練習している。などの回答があり、自ら改善の方法を考えて取り組んでいることが分かった。

○区役所、地域、小学校、関係諸機関と連携した訓練及び安全指導を年3回以上行うについて

- ・10月に消防署、12月に区役所、2月に地域、小学校と連携した訓練及び安全指導を行った。幼児は、訓練や安全指導で教えてもらったことを友達と話したり、身の守り方を実践しようとしていたりしていた。
- ・新高地域・新高小学校・新高幼稚園合同防災訓練に、土曜保育として保護者とともに参加した。昨年度の反省を生かして、小学校の時間割に幼稚園も組み込んでもらったことで、落ち着いて丁寧にまわることができ、煙が発生した際の視界を体験したり、防災クイズで真剣に考えたりしながら、防災意識を高めていた。

【取組内容②】

○友達や身近な人に親しみをもってあいさつを交わす経験ができるよう、年に3回以上、朝のあいさつ週間を設ける、異年齢で当番する機会を設けるについて

- ・12月に4歳児・5歳児合同であいさつ当番を行った。幼児のやってみようという自主的な気持ちを尊重し、希望制にした。寒い時期ではあったが、95%の幼児があいさつ当番に参加し、あいさつ当番を楽しみにしていることが感じられた。4歳児の子どもたちは、5歳児と一緒にすることで、以前は恥ずかしそうにしていた子どもも、自信をもってあいさつするようになった。

【取組内容③】

○年間10回以上、各クラスの取組を保護者に伝える日を設けるについて

- ・年間で以下のように、保育室降園や各始業式・終業式の参加の際に、日ごろの子どもたちの遊びの様子や行事までの遊びの経過を見てもらった。

4月、5月、6月、9月、10月、2月・・・保育室降園

7月・・・1学期終業式

12月・・・2学期終業式

1月・・・3学期始業式

3月・・・保育修了式、3学期終業式

保護者が保育室に入る頻度が増え、子どもたちは毎月の製作物や壁面飾りを見てもらう機会が増えた。子どもたちはその都度、保護者の方に認めてもらうことで自己肯定感が高まったり、もっとこうしてみようと意欲を高めたりする姿が見られた。

○ホームページを通して、幼児の遊びを通した学びを発信し、保護者と連携しながら幼児理解を深めるについて

- ・1月に大阪市の学校園のホームページシステムがリニューアルされたことに伴い、園内で操作研修を行い、全教員が新しいホームページシステムを活用できるよう、共通理解して準備した。個人の肖像に配慮した機能が付いたことで、掲載しやすくなった部分と伝えたい映像が不明瞭になった部分があった。
- ・「遊びを通した学び」を捉えにくいという保護者の声を受けて、始業式や終業式でスライドを上映する中で、1つ1つの幼児の写真や動画を通して、このとき幼児が何をどう

うに学んでいるかを、保護者に具体的に伝えることができた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・区役所の安全指導を行った12月は、5歳児にとっては、通学を意識し始める時期であり、学んだことを3学期を通して指導に生かすことができ、効果的だった。今後もこのように、よりよい指導のために、年間計画を見直していく。
- ・次年度も、訓練や安全指導を通して、安全・安心な生活を目指すとともに、防災・防犯意識を高める取組と発信の仕方を工夫する。
- ・ヒヤリハットアンケートは、危険を未然に防ぐことにつながると考える。今後も、どのように改善したのかを記述してもらするなど、自分事として、安全・防犯に取り組んでもらえるような設問の仕方を工夫するとともに、回答集を配布し、生かしてもらえるようにする。

【取組内容②】

- ・次年度も、計画的にあいさつ運動を行い、進んで元気にあいさつをできるようにする。
- ・幼稚園で当番を指名するのではなく、日程表に保護者に希望日を書き込んでもらうようにしている。主体的に参加することが、あいさつへの意識や意欲を高めていると考える。一時預かり保育参加者の保護者にも、漏れなくまた、余裕をもって日程の周知をする。

【取組内容③】

- ・次年度も引き続き、子どもの姿や遊びを通した学びをHPなどで発信し、PTAを連携し、懇談などを通して保護者と連携しながら幼児理解を深める。

(様式例2)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。</p> <p>「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」</p> <p>「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にした教育を実践している」</p> <p>「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取り組みをしている」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを参考にし、園の実態を踏まえて教育課程を見直す。</p> <p>指標・子どもが自ら身近な自然に興味や関心をもち、遊びに取り入れられるよう、学期に1回以上、園内の環境を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携に取り組む。（年間2回以上の幼児・児童の交流活動、1回以上の教職員の交流を実施する） ・園の特色や幼児の姿を踏まえて行事のねらいや活動内容を見直し、教育課程に反映する。 	A
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>一人一人の実態を踏まえて、遊びの中で、多様に体を動かすことを楽しめるよう教材や環境を工夫する。</p> <p>指標・毎月の誕生会や集会を活用し、園全体で遊びを共有しながら、友達と一緒にダンスや体操を楽しめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に遊ぶことができるよう安全点検（毎日、毎月）をし、環境を整える。 	B
<p>取組内容3（5 健やかな体の育成）</p> <p>基本的な生活習慣を身につけるとともに、心の健康を育む。</p> <p>「早寝、早起き、朝ごはん、排泄、歯みがきの指導の継続と、生命（いのち）の安全教育を通して心の健康を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、保健指導の内容を保護者にわかりやすく伝える（降園連絡、掲示物、ほけんだよりなどを活用して） ・文部科学省の教材などを活用しながら、年2回程度、生命（いのち）の安全教育を行い、自分を大切にする気持ちをもたせる。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○子どもが自ら身近な自然に興味や関心をもち、遊びに取り入れられるよう、学期に1回以上、園内の環境を見直すについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月にふれあい栽培で冬野菜を栽培した。 <p>害虫被害が出る前に、子どもたちが自分の野菜に水やりをしたり、実の成りを確認したりできるような開閉式の大きなネットを作った。降園時に水やりをする際には、毎度そのネットを開放する手間がかかったが、その大切さを経験していたことで、保護者とともに自分を大切に育てている姿が見られた。幼児にとっても夏野菜を育てた経験が保護</p>	

者にとっても生かされたからだと考える。

- ・誕生会では、毎月、園内の自然に関する話題を投げかけた。
「園内ミッケ！」と題して、知らせたつぼみや葉や花などが園内のどこにあるのか必死に探す姿があった。探している途中で、新たな自然物を発見して、教師に知らせたり、図鑑や本で調べたりする姿もあった。
また、前月やそれ以上前に紹介した植物を引き続き育て、その生育状況を見たり触れたりすることで、その植物の生長や季節の移り変わりに興味や関心をもっていた。それを受けてクラスでも育てることで、好奇心や探求心をもつ姿につながった。

○小学校との連携に取り組むについて

- ・10月以降の小学校との連携については以下の通りである。
【11月】 2年生：町探検…児童が幼稚園を訪問、幼稚園教員にインタビューをする
1年生：作品展見学…園児が児童に自分の作品を説明する
後日、1年生からお礼の手紙が届いた
【1月】 幼小合同避難訓練…小学校の計画案に幼稚園の内容も記載してもらい、共通理解した。
打ち合わせを紙面だけで済ませるのではなく、対面で話し合っただけで、事前に注意点を把握でき、当日はスムーズに避難できた。
【2月】 地域・小・幼合同防災訓練…計画時から参画し、実施する。
【3月】 5歳児：1年生と交流…1年生の児童と一緒に昔遊びを楽しんだ。
小学生にとっても幼児とかかわる中で、授業での学びを实践できたとのことだった。

○園の特色や幼児の姿を踏まえて行事のねらいや活動内容を見直し、教育課程に反映するについて

- ・園内だけでなく、新高中央公園、新高公園、堀上児童遊園など、地域の公園に出かけ、春と秋の自然に触れられるように計画をした。草花を色別に採取したり、そこに生えている植物の名前を調べようとしたりして、身近な自然に親しみながら一人一人が興味や関心をもって、探索していた。
- ・現在の園児数だからこそ、個別の取組に丁寧に寄り添うことができる面がある。その点を生かして、5歳児が保護者とともに、育てたい野菜を調べて育てるという取組ができた。

【取組内容②】

- 毎月の誕生会や集会を活用し、園全体で遊びを共有しながら、友達と一緒にダンスや体操を楽しめるようにするについて
- ・誕生会では毎月、新しいダンスや体操を紹介し、異年齢で交流しながら遊べるように工夫した。年間を通して誕生会で取り組んだダンス・体操は以下の通りである。

4月	カピバラ体操
5月	すすめ！ダンゴムシ
6・7月	T・K・G！～たまごかけごはん～
8月	ラララ！トロピカーニバル！
9月	この地球の続きを
10月	グーチョキパーでパンプキン

1 2月	いちごサンタクロースと踊りましょう
1月	ケラケラじゃんけん
2月	ともだちいいね

- ・全園児で、また各クラスで、ダンスや体操を通して、友達と一緒に体を動かすことを楽しみ、いろいろな動きを経験できるようにしてきた。生活発表会では、物語に出てくる登場する生き物になりきって表現する中で、多様な身体表現のアイデアを生み出していた。1年間の活動の中で、様々な動きを経験し、バランス感覚が養われたことで、いろいろな体勢をとることができるようになったことが要因であると考えます。
- ・新たな遊具として、三輪車とバランスペダルが加わった。初めは体の使い方、体重のかけ方などがわからず、苦戦していたが、何度も挑戦するうちにコツをつかむようになった。異年齢と一緒に、園庭に出ることで、4歳児が5歳児の姿を見ながら挑戦していた。このように、友達と一緒に、やりたいことに十分に取組める時間と環境の保障が大切であると分かった。

○安全に遊ぶことができるよう安全点検（毎日、毎月）をし、環境を整えるについて

- ・日ごろより、園庭の大型遊具、その他の遊具、砂場、園舎内についても安全点検と衛生管理を毎日、詳細な点検を月に1回行った。
- ・園庭では、野菜の栽培スペースを大きく取っているが、幼児の運動遊びに必要な場を確保できるように、プランターや植木鉢の場所をこまめに移動したり、各クラスの野菜に囲うバーの先にカバーを付けたりして安全対策をした。

【取組内容③】

○毎月、保健指導の内容を保護者にわかりやすく伝える（降園連絡、掲示物、ほけんだよりなどを活用して）について

- ・保健指導の内容や子どもの様子、教材などを毎月のほけんだよりやホームページに掲載した。また、ホワイトボードに指導内容をまとめて、絵本や教材と一緒にテラスに出し、登降園時に保護者に見てもらえるようにした。その結果、絵本や教材を実際に手に取って見たり、親子で一緒にホワイトボードや教材を見たりする様子が見られた。保護者から「子どもから保健指導の話聞くが、より詳しく保健指導の内容が分かって、有難い」「保健指導で聞いたことを家でも実践している」などの声が聞かれ、保護者啓発につながる事ができた。

○文部科学省の教材などを活用しながら、年2回程度、生命（いのち）の安全教育を行い、自分を大切にすることを伝えるについて

- ・生命（いのち）の安全教育を年2回行った。
6月 プライベートパーツについて 2月 ふわふわ言葉とちくちく言葉について

プライベートパーツの指導では、体には特別大事なところ（プライベートパーツ）があり、そこは見るのも触るのも自分だけということ、着替えの際に服を脱いだらすぐに着ることなどを伝えた。その後も必要に応じて個別に指導をしたり、声かけをしたことで継続的な指導につながり、服を脱いだらすぐに着ようとする子どもが多く見られるようになった。

ふわふわ言葉とちくちく言葉の指導では、言葉には言われて嬉しい気持ちになる「ふわふわ言葉」と、悲しい気持ちになる「ちくちく言葉」があること、自分の思いを伝えるときは、言葉次第で相手の感じ方が変わるので相手の気持ちを考えた言葉の選択をすることなどを伝えた。指導後、保育室でいつも以上に「ありがとう」という言葉が出たと担任から聞いたり、相手を気遣った言葉がより多く聞かれるようになった。ま

た、保護者からも「大切なことを指導をしてもらえて有難い」「大人もちくちく言葉を使
ってしまっているときがあるので気を付けたい」などの声が聞かれた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・次年度も引き続き、子どもの実態に応じて、園内の環境を整えられるよう、教職員で連携する。
- ・小学校との交流活動の際は、幼児期から小学校までの学びのつながりを明記した指導案を作成できるように事前に打ち合わせをすることが望ましい。
- ・新たな取組を教育課程に反映する際には、当該年度の実態を捉えた進め方や内容の工夫について十分に検討し、時間を考慮した必要である。

【取組内容②】

- ・次年度も引き続き、誕生会でダンスや体操を紹介し、多様に体を動かす機会をつくる。

【取組内容③】

- ・次年度も引き続き、保健指導についてほけんだよりやホームページ、ホワイトボードなどを活用して保護者に分かりやすく伝える。
- ・次年度も引き続き、生命（いのち）の安全教育に取り組む。

(様式例2)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】 令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。 「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」 「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【8 生涯学習の支援】 絵本室を活用して、絵本に親しむ子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標・園児への絵本貸出しを実施する。(週1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい絵本貸出しを年間6回以上実施し、当日に教職員が絵本の読み聞かせをする「お話の日」を設け、家庭と連携して絵本に親しむ子どもを育てる。 	B
<p>取組内容②【9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】 保護者や地域と連携して、子育て支援を行う。</p> <hr/> <p>指標・毎月「にいたかようちえんだより」を発行し、地域の方に園の教育内容や子育てに関する情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にいたかランド」等、地域の未就園児が参加できる活動を年間10回以上、実施するとともに、ホームページ等で情報や取り組み内容を発信する。 ・保護者アンケートの「ホームページは、幼稚園の教育内容や遊びを通じた学びの発信に生かされている」項目で、当てはまると回答する割合を80%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

<p>【取組内容①】 ○園児へ週1回絵本貸出しを実施するについて ・引き続き、週に1回の絵本貸し出しを実施した。 定期的におすすめ絵本や季節に応じた絵本を展示棚を活用して子どもたちに知らせた。 毎回同じシリーズの絵本を借りるなど、お気に入りの絵本がある子どもが増えた。</p> <p>○ふれあい絵本貸出しを年間6回以上実施し、当日に教職員が絵本の読み聞かせをする「お話の日」を設け、家庭と連携して絵本に親しむ子どもを育てるについて ・ふれあい絵本貸出は6月、7月、9月、11月、1月、2月に行った。 おはなしタイムの実施については以下の通りである。 6月…ふまんがあります 7月…やさしいライオン 9月…そらまめくんのベッド 1月…ブレーメンの音楽隊（ペープサート） 2月…おやさいしろくま 3月…パンどろぼう（実施予定） 毎回のふれあい絵本貸出、おはなしタイムには多くの家庭が参加している。絵本以外の</p>

媒体を使って読み聞かせをしたことで、絵本に親しみをもつための方法を保護者の方に知ってもらい良い機会となった。参加した保護者からは「最近このシリーズの本を借りてくることが多いので、家でも買ってみたいと思う」「小さい時に読んだ記憶があって気になって借りてみたら、懐かしい気持ちになった」などの意見があった。その結果、ふれあい絵本貸出しや読み聞かせに積極的に参加する親子が増えた。

【取組内容②】

○毎月「にいたかようちえんだより」を発行し、地域の方に園の教育内容や子育てに関する情報を発信するについて

- ・「にいたかようちえんだより」を配布したことで、行事や遊びを通した学びの実践を発信することができた。保護者にも配布したところ、楽しみにしているとの声が聞かれた。

○「にいたかランド」等、地域の未就園児が参加できる活動を年間10回以上、実施するとともに、ホームページ等で情報や取り組み内容を発信するについて

- ・計画通り年間10回以上実施することができた。また、
- ・今年度の未就園児「にいたかランド」の登録数は17人であった。
淀川区役所のスマイルステップと連携して、チラシを置いてもらったり、地域の子育てサロンにも職員が参加して、にいたかランドの周知を図った。
- ・未就園児サークル「ももキッズ」の対象年齢を2歳児以上に広げたところ、会員が増えた。園児と交流して遊ぶ時間を意図的にもつことで、園児にとっても自分よりも年少の友達に思いやりややさしさをもって関わる機会となり、心の成長が見られた。園児にとっても自分よりも年少の友達に思いやりややさしさをもって関わるができる貴重な機会となった。

○保護者アンケートの「ホームページは、幼稚園の教育内容や遊びを通した学びの発信に生かされている」項目で、当てはまると回答する割合を80%以上にする。

については、当てはまるの回答が96.6%で、目標を上回った。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・次年度も引き続き、絵本貸出やふれあい絵本貸出を行い、絵本に親しむ子どもを育てる。
- ・一時預かり保育の利用者が増え、降園時間に保護者がそろうことが難しい。ふれあい絵本貸し出し日の意図を伝え、必要性を感じてもらえるように工夫することが必要であるとともに、一時預かり利用者にも伝えられるような実施方法について検討が必要である。

【取組内容②】

- ・次年度も引き続き、HPや広報誌で未就園児活動や、園庭開放の日程を周知する。
- ・就学前施設に入園入所する年齢が低下する傾向にあり、地域の公園等で遊ぶ仲間があまりいないという声も聞いた。地域の未就園児のためにも継続して行う。
- ・発信するだけでなく、地域の子どもたちと園児との交流の機会を通して、本園の実態や教育内容を理解してもらえるようにする。

1 総括についての評価

○今年度は、運営に関する計画（最終評価）を学校協議会委員に配布し、各種データや教育活動の報告等をもとに各々の意見を集約した結果、全ての項目で目標を上回って達成していた。年度目標についてはAが妥当である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：**安全・安心な教育の推進**

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り組んでいる」

「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にされた保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」

達成状況の評価に関してはA評価とする。

○今年度は小学校や地域との避難訓練、防災訓練にも力を入れた。

10月に消防署、12月に区役所、2月に地域、小学校と連携した訓練及び安全指導を行った。幼児は、訓練や安全指導で教えてもらったことを友達と話したり、身の守り方を実践しようとしていたりしていた。

2月の新高地域・新高小学校・新高幼稚園合同防災訓練に、土曜保育として保護者とともに参加した。昨年度の反省を生かして、小学校の時間割に幼稚園も組み込んでもらったことで、落ち着いて丁寧にまわることができ、煙が発生した際の視界を体験したり、防災クイズで真剣に考えたりしながら、防災意識を高めていた。

○ヒヤリハットのアンケートを行った。今年度は、危険を感じたことをどのように改善するかについても質問したところ、「信号が青に変わってから、必ず車が交差点からいなくなるまで渡らないようにしている」「大きな公園では、人にまざれないように、目を離さないようにしている」等、具体的な改善策が書かれており、保護者の危機意識が高まっていることが分かった。

○12月には、あいさつ当番を担当が決めるのではなく、空欄のあいさつ表を出し、保護者に希望日を書き入れてもらう希望制にして行った。95%の幼児があいさつ当番に参加し、あいさつ当番を楽しみにしていることが感じられた。4歳児の子どもたちは、5歳児と一緒にすることで、以前は恥ずかしそうにしていた子どもも、自信をもってあいさつするようになった。

○年間で10回以上、各クラスの取組を伝える保育室降園を行った。日ごろの子どもたちの遊びの様子や行事までの遊びの経過を見てもらった。保護者が保育室に入る頻度が増え、子どもたちは毎月の製作物や壁面飾りを見てもらう機会が増えた。子どもたちはその都度、保護者の方に認めてもらうことで自己肯定感が高まったり、もっとこうしてみようと意欲を高めたりする姿が見られた。

○これらの活動により、

「幼稚園では、お子さまにとって安全で適切な指導を行い、そのための環境づくりに取り

組んでいる」

「幼稚園では、すすんであいさつをする幼児を育てる取組をしている」

「幼稚園では、保護者と連携し、幼児の思いや願いを大切にされた保育の中で、主体的に遊ぶ子どもを育てている」の全ての質問について、当てはまるが100%であった。

以上から、目標を上回って達成していると評価された。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にされた教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取組をしている」

達成状況の評価に関してはA評価とする。

○「園内ミッケ！」と題して、知らせたつぼみや葉や花などが園内のどこにあるのか必死に探す姿があった。探している途中で、新たな自然物を発見して、教師に知らせたり、図鑑や本で調べたりする姿もあった。

○小学校との連携について、幼稚園行事と小学校の授業を通して、幼児と児童の交流を行った。幼児期から児童期への育ちのつながりを実感することができた。

○毎月の誕生会や集会の時には、新しいダンスや体操を子どもたちに知らせた。季節に応じた曲や新しい曲を探す教師の教材研究にもつながっている。

○自分の体に関心をもち、大切にしようとする心を育むため、毎月の保健指導と共に、今年度は生命（いのち）の安全教育に関する保健指導を行った。着替えコーナーにパーテーションを設置したり、幼児が小便器で排泄するときに、素肌を出さないよう繰り返し指導したりしてきたことで、子どもたちも少しずつ取り組んでいる。

○これらの活動により、

「幼稚園では、子どもが自ら興味や関心をもって身近な環境に関わり、主体的に活動する子どもを育てている」

「幼稚園では、遊びを通した学びを大切にされた教育を実践している」

「幼稚園では、基本的な生活習慣を身に付けるような指導を行い、健康的な生活の基礎や体力向上につながる取組をしている」の全ての質問について、当てはまるが100%であった。

以上から、目標を上回って達成していると評価された。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

令和7年度末の保護者アンケートにおいて次の項目について「当てはまる」と回答する割合を80%以上にする。

「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」

「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」

達成状況の評価に関してはA評価とする。

○毎回のふれあい絵本貸出、おはなしタイムには多くの家庭が参加している。絵本以外の媒体を使って読み聞かせをしたことで、絵本に親しみをもつための方法を保護者の方に知ってもらう良い機会となった。参加した保護者からは「最近このシリーズの本を借りてくることが多いので、家でも買ってみようと思う」「小さい時に読んだ記憶があって気になって借りてみたら、懐かしい気持ちになった」などの意見があった。その結果、ふれあい絵本貸出しや読み聞かせに積極的に参加する親子が増えた。

○毎月「にいたかようちえんだより」を発行し、地域の回覧板や掲示板にて、地域の方に園の教育内容や子育てに関する情報を発信するとともに、家庭にも配布したことで、幼稚園の取組についてより一層、保護者の方に分かっていた。ただけた。

○淀川区役所のスマイルステップと連携して、チラシを置いてもらったり、地域の子育てサロンにも職員が参加したりして、にいたかランドの周知を図った。

○これらの活動により、

- ・「幼稚園では、自ら絵本に親しむ子どもを育てる取り組みをしている」について、当てはまるが100%であった。

- ・「幼稚園では、遊びを通して学ぶ子どもの姿を家庭や地域に発信している」について、当てはまるが96.6%、やや当てはまるが3.4%であった。

以上から、目標を上回って達成していると評価された。